地震と津波による被害

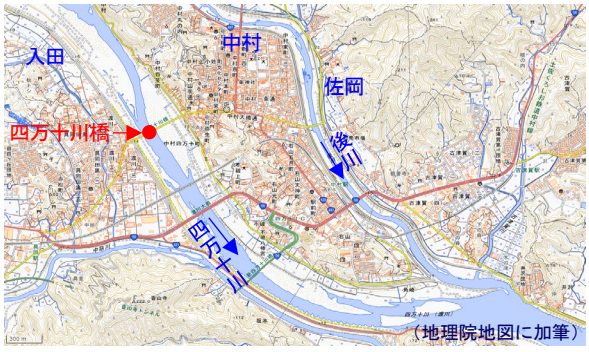
大地震が起きると、震動で家屋が倒壊したり、火災が発生したり、津波で人や建物が流されるなどさまざまな被害が起こります。今回は、昭和南海地震で津波被害に遭った徳島県浅川村（現海陽町）と、震動や火災、地盤変動で大きな被害に見舞われた高知県中村町（現四万十市）の様子をお伝えします。

■浅川村の津波被害（徳島県海陽町）

昭和 21 年（1946）12 月 21 日午前 4 時 19 分、紀伊半島沖で M8.1 の南海道大地震が発生し、海部郡沿岸には地震発生後 10 分余りで津波の第一波が襲来し、15 分ないし 20 分の周期で第二波、第三波が襲来しました。典型的なＶ字湾である浅川湾では津波の波高が増幅しやすく、湾奥ほど波が急激に高くなり、津波は陸上に這い上がり、人家を襲い人命と財産を奪いました。浅川村の被害は死者 85 人、負傷者 80 人、家屋の流失 441 戸、全壊 364 戸、半壊 189 戸、田の流失埋没 35 町、浸水 35 町、畑の流失埋没 13 町、浸水 20 町、船舶の流失 80 隻、大破 20 隻に達したほか、道路、橋梁、港湾などにも大きな被害が出ました。海陽町浅川出張所前に、震災後 50 年南海道地震津波史碑と津波十訓碑が建立されています。＜海南町史編さん委員会編「海南町史上巻」1995 年、海南町編「南海地震津波の記録 宿命の浅川港」1986 年など＞

震災後 50 年南海道地震津波史碑(右)と津波十訓碑(左)

■中村町の地震被害（高知県四万十市）

昭和 21 年（1946）12 月 21 日午前 4 時過ぎ、南海道沖大地震が発生し、中村町では震動により全世帯数 2,448 戸のうち全壊が 1,111 戸、半壊が 611 戸で家屋の 7 割以上が全半壊の被害を受け、火災による焼失家屋が 66 戸、地震による死者は 278 人となりました（中村町史による）。河川では、渡川（四万十川）と後川を合わせて全長約 14km にわたり、最大 4m最小でも 30cm の沈下を生じたほか、各地で亀裂、崩壊の被害を受けました。特に渡川右岸入田堤防、後川右岸中村堤防、後川左岸佐岡堤防の被害は甚大でした。四万十川橋はトラス橋 8 連のうち両端を残して 6 連が落橋しました。＜中村町役場編「中村町史」1950 年、建設省四国地方建設局中村工事事務所編「六十年の歩み」1991 年など＞

現在の四万十川橋